

【別紙様式1】(小学校用)

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	広島県比婆郡口和町立口南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	9
児童数	9	17	7	15	16	13	0	77	

II 研究の概要

1 研究主題

基礎・基本の定着をめざし,意欲的に学ぶ児童を育成する。  
～個に応じた指導法の工夫・改善を通して～

2 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 第2学年・第3学年・第4学年・第5学年・第6学年の算数科  
学校として,当該教科に関して昨年度(平成14年度)より研究を行っていたため。また上記学年は,児童の理解の状況に差がある学年であるため。
- ・ 第4学年・第5学年・第6学年の国語科  
児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

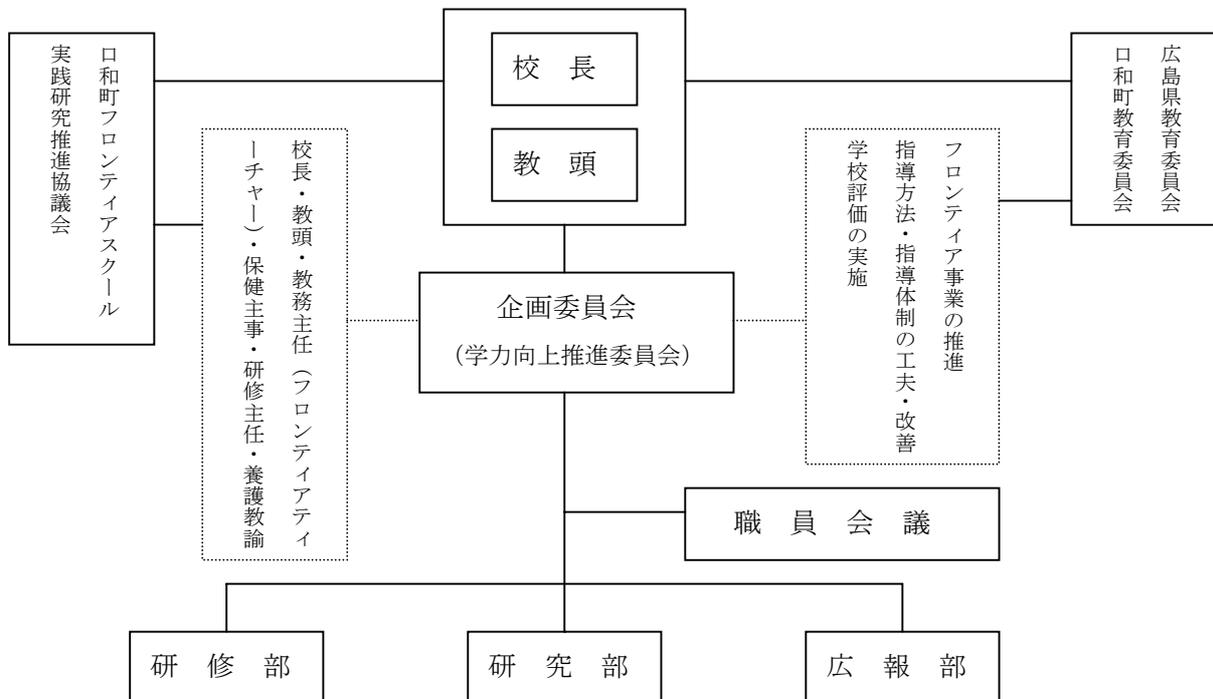
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○ テーマ 基礎・基本の定着を図り,わかる喜びを育む授業の創造 ～個に応じた指導法の工夫・改善を通して～</p> <p>○ 仮説 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行えば,確実に基礎・基本の定着を図ることができ,わかる喜びが生まれ,意欲的に学ぶ児童が育成できるであろう。</p> <p>○ 研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童一人一人の興味・関心,習熟度,多様な意見に応じられるような学習形態および学習内容の工夫をする。</li> <li>・ 学習過程における工夫や努力などを振り返ることができる算数ノートの指導の工夫をする。</li> </ul>
--------	---

平成  
16  
年  
度

- テーマ  
基礎・基本の定着を図り，学習意欲を育む授業の創造  
～個に応じた指導法の工夫・改善を通して～
- 仮説
  - ・ 学習過程において，個に応じた学習形態を工夫すれば，基礎・基本の学力が確かなものになるであろう。
  - ・ 書く活動を通して，自力解決場面における表現力を育てる工夫をすれば，考える力が伸びていくであろう。
  - ・ 児童の自己評価力を高める工夫をすれば，児童はより意欲的に学習するであろう。
- 研究の内容・方法
  - ・ 単元・1時間レベルにおける効果的な学習形態の工夫について研究する。
  - ・ 補充的学習・発展的学習に応じた教材開発を行う。
  - ・ ノート指導による数学的思考方を育てるための評価と指導方法について研究する。
  - ・ 学習意欲を育むための自己評価力を高める指導方法について研究する。

### (3) 研究推進体制



### III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1 研究の成果

算数科において、単元末の習熟度別学習により、学習内容の定着率が向上した。  
算数科において、学習の流れが分かりやすいノート指導の取り組みにより、学習意欲が向上した。

#### 2 考察

##### (1) ①の取り組みと考察

算数科において、単元末の習熟度別学習により、学習内容の定着率が向上した。

##### ① 取り組み

###### ◎学習形態・学習内容の工夫

- ・各単元においてどの学習内容のとき習熟度別学習を行うのかを考え、単元計画を立てた。
- ・単元導入前に、レディネステストを行い、既習事項の定着を図っておく。
- ・単元のまとめ（第一次評価）において、児童の定着状況を把握し、その定着状況に応じて、発展的学習コース及び補充的学習コースを設け、到達度の向上を図る。再度、単元のまとめ（第二次評価）において定着状況を把握する。

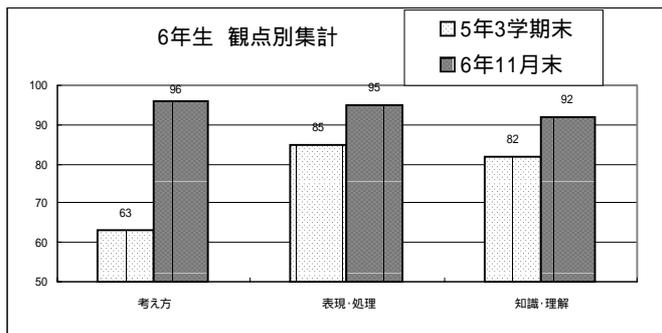
###### 【単元レベルでの指導の流れ】



##### ②考察

###### ◎全単元テストの観点別集計による考察

図—1



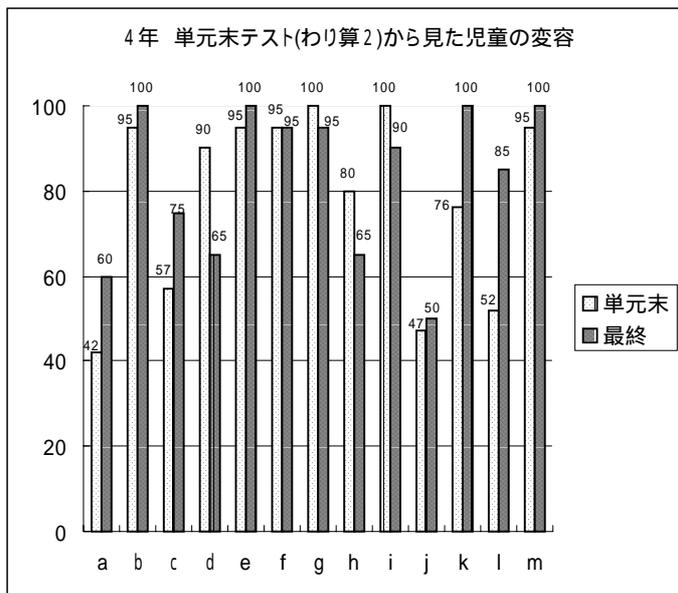
図—1は、第6学年の市販テストによる観点別到達度を、第5学年時の3学期末と今年度の11月とを比較し、グラフ化したものである。

左のグラフから、どの観点でも伸びを示していることがわかる。特に考え方については33%も伸びている。

TT指導・少人数指導により個に応じた指導ができた成果だと考えられる。特に少人数指導を積極的に仕組むことで、児童一人一人が自分の考えを説明する機会をより多く設定できた成果であると考えられる。

◎単元における第一次評価と第二次評価（最終テスト）について

図一2



図一2は、単元終了時の第一次評価と、習熟度別学習を行った後の第二次評価の到達度を比較したものである。

左のグラフから、伸びを示した児童が多いが、通過率が下がった児童も若干いることがわかる。伸びを示した児童が多いことは、単元末における習熟度別学習が、学習内容の確実な定着において効果的な取り組みであるといえる。

この単元では、第一次評価は表現処理、知識理解を問う問題で構成され、第二次評価はこれに考え方を問う問題を出題した。通過率の下がった児童や通過率の低い児童はともに数学的思考方をやや苦手と感じている。

このようなことから、今後個に応じた教材をさらに研究し、より効果的な取り組みにしていきたい。

(2) ②の取り組みと考察

算数科において、学習の流れが分かりやすいノート指導の取り組みにより、学習意欲が向上した。

① 取り組み

◎算数ノートの指導について

自己解決場面において、自分の考えを整理することや、集団解決場面において友達への考えやわかったことを記入することで、より自分の考えを振り返ることができ、思考力の向上が図れると考える。

また指導者として、ノートを通して授業中は十分把握できない児童一人一人の考えや定着の様子を見ることができると共に、ノートに赤ペン指導を行うことによって、児童が自己の学習を客観的に評価し、意欲を持って学習に参加するようになるであろうと考えた。

さらに、この時間の指導のあり方を振り返ることができ、次時の授業に生かすことができると考え、算数ノートの積極的な指導を取り入れることとした。

今年度2学期に、ノートのモデルを示し、改めて全学年でのノート指導を行うことにした。各学級でのノート指導の工夫を出し合い、次の点について共通して指導した。

- (例) ア 授業用ノートと家庭学習用ノートとを分けること
- イ できるだけ見開き2ページに1時間の学習の流れを書き記すこと
- ウ 学習課題はノートの最上部に書き、赤枠で囲むこと
- エ 振り返りの後には、指導者が肯定的評価を行うことなど

※ノートのモデル

左ページ		みんなで ↓ 右ページ	
日付→ ページ→	<p>学習課題</p> <p>本時の課題を児童にもはっきり持たせ。課題にそって解決していく。</p> <p>問題</p> <p>自力解決                      &lt;見通しをもって、まず自分で考える&gt;                      ・既習の学習と結びつけて考える。                      ・数量の関係を図や絵で表現する。                      ・いろいろな方法で解決し、その考え方のポイントも書き込む。                      ・結果が意図に合っているか調べる。                      ・自分の考えをまとめる。</p>	<p>練習上げ                      ・繰り返し合った後、気づかなかった別の方法を記録しておく。                      ・より簡潔、より明確、よりの確な考え方や、どんな場合にも当てはまるものについて記録しておく。</p> <p>まとめ</p> <p>本時の課題について、言葉・式・図などにまとめる。</p> <p>練習問題                      ・本時の学習内容が分かったかどうか練習問題（類似題や発展問題）を解く。</p> <p>振り返り</p> <p>本時の課題や評価規準について選択肢や文章で自己評価する。</p>	<p>先生から                      児童のがんばりや良さを認めたり、気をつければ良くなる点を一人ひとり肯定的に挙げたりしながら書く。</p>

② 考察

◎算数ノートについて

図-3

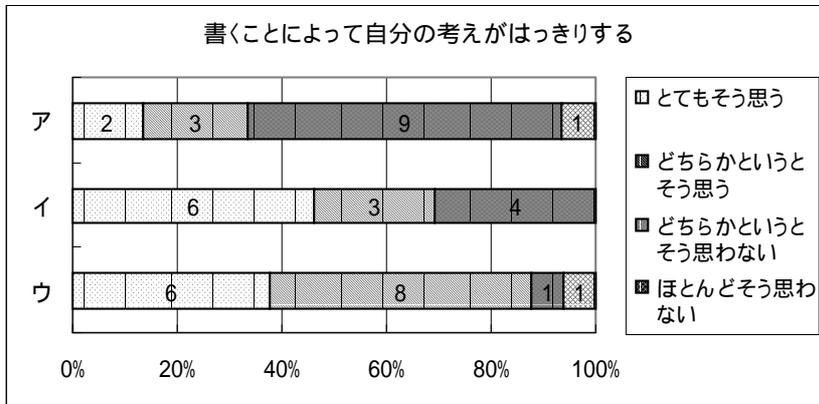


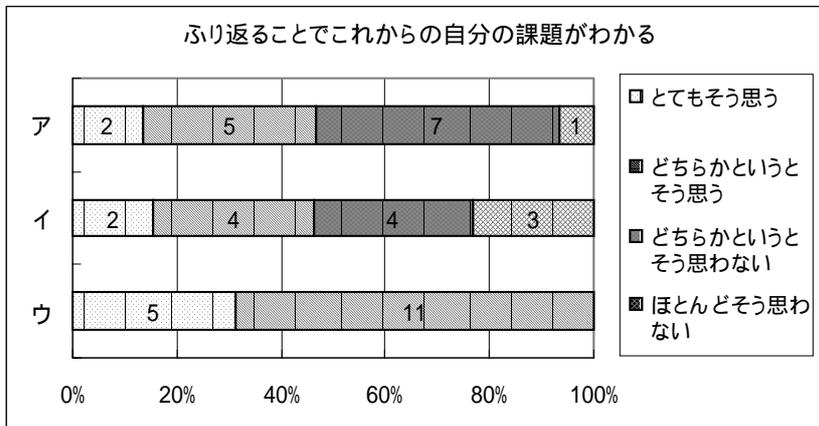
図-3・4は、算数ノートについて全学年で共通した取り組みを始めてから1ヵ月後に行った質問紙法による意識調査のグラフである。

アは、取り組みを始めて間もない学級（第4学年）

イは、取り組みを始めて1ヵ月たった学級（第6学年）

ウは、継続して取り組んでいた学級（第5学年）

図-4



左の2項目について考察すると、継続してノート指導を行ってきた学級の方が肯定的に回答している児童が多い。

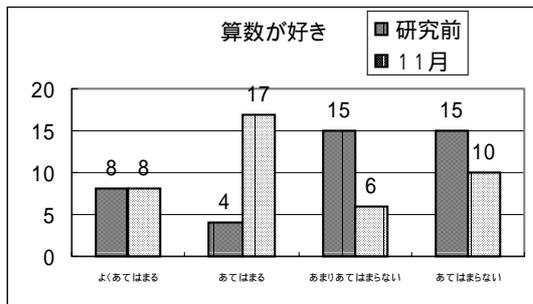
ノートに自分の考えを整理することで、思考過程がより明確になり、主体的に学習に参加することができたと考えられる。

また、自己の学習を振り返ることで、児童個々が自分の課題を意識することができるようになってきているといえる。

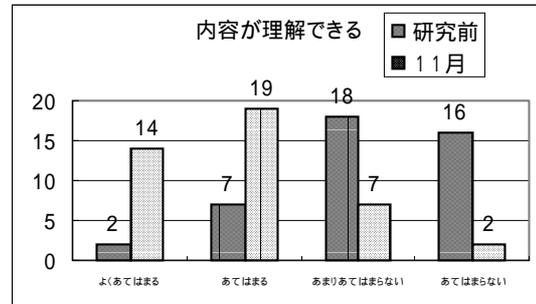
児童の振り返りは、指導者の授業反省でもある。

◎児童の意識調査より

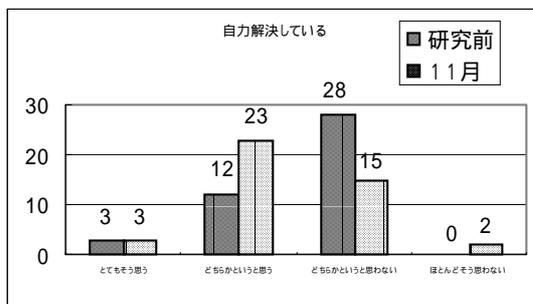
図一5



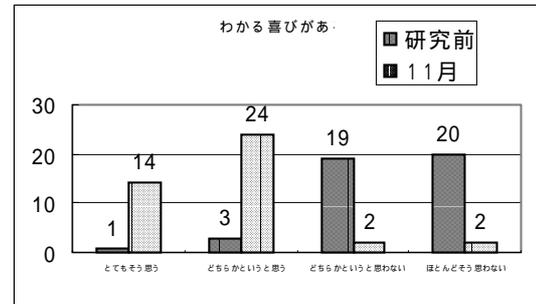
図一6



図一7



図一8



図一5～図一8のグラフは、質問紙法による学習に対する意識調査（4～6学年児童対象）を研究前と11月とで比較したものである。

「算数が好き」「内容が理解できている」「自力解決している」「わかる喜びがある」の4項目全てにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」が増加している。

「算数が好き」な理由としてTT指導で学習内容が分かりやすくなったこと、少人数学習が増え授業中発表や質問がしやすくなったこととその回数が多くなったこと、自力解決や集団解決の楽しさなどを挙げている。

また、「内容が理解できている」と思っている児童が増加している。ノート記述を中心にした自力解決学習、算数ノートの振り返り部分での選択肢や文章による児童の自己評価に、指導者は肯定的な評価を行ってきた。そして、児童の自己評価を次時の指導に生かし、1単位時間の学習内容の定着に向けた授業が展開できたと考えている。

「算数のノートを家の人に見てもらったんだよ。」とうれしそうに話してくれる児童もいるなど、ノート記述を大切にした学習の展開は、学習意欲の向上や家庭との連携にも効果的であると考えられる。

このようなさまざまな要因が「授業中にわかった喜びがある」と答えられる児童が増えてきたことにつながったのだと考えている。今後、こうした学習に対する姿勢・意欲と学力との相関関係について、研究していきたい。

### 3 今後の課題

- 各単元における学力の確実な定着を図るために、児童一人一人の学力状況把握を基に、単元レベルや1時間単位での効果的な学習形態について研究していく。
- 習熟度別の各コースにおいて、個々に応じた学習教材を開発する。
- 児童は、自己の学習状況を正しく把握し、課題を明確にすることで、課題解決に向け、学習意欲が高まると考える。そこで、児童の自己評価力と学習意欲を育成する指導法について研究していく。
- ノート指導による数学的な考え方を育てるために、各学年に応じた系統的指導と評価について研究していく。

### IV 学力把握のための学校としての取り組み

- 学力診断テスト
  - ・ 学力状況を把握するため
  - ・ 実施教科 国語科（NRT学力検査）  
算数科（NRT学力検査・CRT学力検査）
  - ・ 実施時期 学年末
- 町内学力定着状況調査
  - ・ 基礎的内容の定着状況把握のため
  - ・ 実施教科 国語科・・・新出漢字及び言葉のきまり  
算数科・・・「数と計算」「図形」領域
  - ・ 実施時期 各学期

### V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ◎口和町小中学校教育研究会を開催
  - 平成15年12月9日（火） 13:00～ 於：口和町各小中学校  
口和町民文化ホールヒューマンライツ
  - ・ 算数科公開授業研究会（口南小学校）  
（対象）近隣小学校，並びに口和町民，及び保護者
- ◎平成15年度学力向上フロンティア事業中間発表会
  - 平成16年1月27日（火） 13:00～ 於：三次市福祉保健センター
  - ・ 「確かな学力」の向上のための実践研究の公表及び一層の充実のための研修  
（対象）管内（備北教育事務所）小学校・中学校教職員  
各市町村教育委員会職員
- ◎ 口和町小中学校教育研究会の開催予定
  - 平成16年10月5日（火） 日程は未定
- ◎ HPで今年度のまとめを掲載する予定

◇ 次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】             15年度から新規校             14年度からの継続校

【学校規模】                     3学級以下                     4～6学級  
                                   7～9学級                     10～12学級  
                                   13～15学級                   16学級以上

【指導体制】                     少人数指導                     T・Tによる指導  
                                   その他

【研究教科】                     国語                     社会                     数学                     理科  
                                   外国語                   音楽                     美術                     技術・家庭  
                                   保健体育                 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】             有                     無



